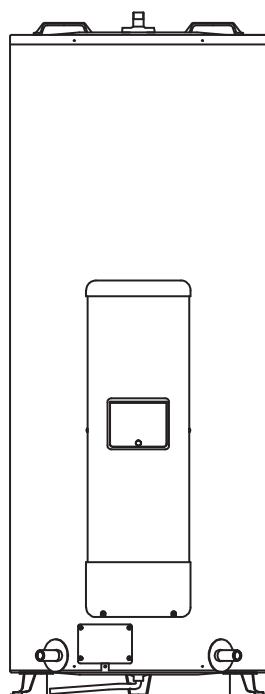


工事要領・取扱説明書

製品名： 深夜電力専用
丸型電気温水器

通電制御型 型 式： ES-300,370,460CM



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置、ご使用ください。
設置工事（試運転）後は、必ず本書をご使用になる方にお渡してください。
本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。

※この工事要領・取扱説明書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、弊社は一切責任を負いません。

もくじ

共通項目	4
安全上のご注意	5
ES-CMシリーズについて	7
仕 様	8
各部の名称と機能	9
本体寸法	10
リモコン	11
 工事要領	 12
施工前にご確認ください	13
1. 部品の確認	13
2. 運搬と開梱	14
3. 設置場所の確認	14
施工する	16
1. 設置工事	16
2. 配管工事	17
3. 電気工事	21
4. リモコン工事(リモコン付のみ)	23
5. 施工後の確認	25
試運転を行う	26
1. 温水器に給水する	26
2. 漏電遮断器の動作確認	26
3. 通電確認	27
4. 試運転後の確認	28
 取扱説明	 30
使用方法	31
使用前の準備	31
温水器への通電(お湯を沸かす)	31
お湯を使う	32
冬季の使用(凍結防止策)について	32

リモコン使用方法	33
時計を合わせる	33
沸き上げ温度の設定をする	34
タイマー機能について	35
沸き増し設定をする	35
夜間時間帯を変更する	36
沸き上げを休止する	36
温水器のお湯の量を確認する	37
バックライトを点灯する	37
故障表示	38
お手入れの方法	39
保守点検項目と実施の目安	39
長期間使用しないときは	39
短期間使用しないときは	40
給水のしかた	41
逃し弁の動作確認	41
減圧弁ストレーナーの清掃	42
外装の清掃	42
こんなときは	43
故障かな？と思ったら	43
停電後の対応について	44
アフターサービス	45
消耗品について	45
補修用性能部品について	45
メンテナンス契約について	45
修理をご依頼の際には	45

共通項目

MEMO

共通項目

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただく事項を記載しました。設置の前に、本書を必ずお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方にお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。



警告 この表示の欄は、『死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。』



注意 この表示の欄は、『傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容です。』





⊘の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。
⊘の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は分解禁止を意味します。)





●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜くこと、という指示です。)

重要事項：必ずお守りください

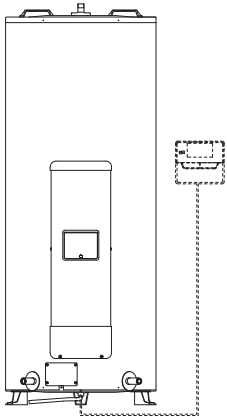
⚠ 警告	
⚠	アース(D種接地)工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電発生時に感電するおそれがあります。
!	定格電圧でお使いください。一時変動がある場合には± 10%以内の環境でお使いください。 故障、火災の原因となります。
	必ず本体の漏電遮断器の動作を確認してください。 万一の故障等による漏電発生時に感電、火災のおそれがあります。
	結線部は正しく、ゆるみがないように配線作業をしてください。 発火、感電の原因となります。
	負圧にならないよう正しく施工、ご使用ください。 負圧になるとタンクが変形して感電、漏水、故障の原因となります。
	逃し弁、減圧弁は必ず取付けてください。 漏水、故障の原因となります。
⊘	絶対に改造はしないでください。 火災、感電、やけど、故障やケガの原因となります。
⊘	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	設置時、試運転時、本体内部の点検時、メンテナンス作業時以外は前カバーを開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
	屋外に設置しないでください。 感電、故障の原因となります。
	水が掛かったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。 腐食や感電、故障の原因となります。
	水・油・洗剤等が掛かる位置に機器本体および電源プラグ用のコンセント(電源プラグ付機種の場合)を設けないでください。 腐食や感電、故障の原因となります。

⚠警告	
	タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。 配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、水栓金具に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。 やけどのおそれがあります。

⚠注意	
	機器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水、故障の原因となります。
	機器本体に強い力や衝撃を与えないでください。 故障や漏水の原因となります。
	断水時には止水栓(給水バルブ)を閉めてください。 破損や故障の原因となります。
	水道水(上水)以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水、故障、発火、漏電の原因となります。
	長期間のご使用によってタンク内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固形物や変色、にごり、異臭があった場合は使用しないでください。 健康を害するおそれがあります。
	床面に防水、排水処置を施してください。 漏水が起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。
	本体設置場所周辺の温度が氷点下になる、もしくは予想される場所では、各配管に対しヒーターや保温材を巻く等の凍結予防処置を施してください。 凍結により破損、漏水のおそれがあります。
	配管工事は標準配管図に従ってください。 故障の原因となります。
	規定の給水圧力(静止圧)にてご使用ください。 誤動作、故障の原因となります。
	満水質量に十分耐えられる強度を持った床面にアンカーボルトを使用して必ず水平に設置してください。 機器の転倒などによる、ケガや故障のおそれがあります。
	満水にしてから通電してください。 故障の原因となります。
	【リモコン付のみ】リモコンを浴室など湿度の高い場所、屋外などの雨の当たる場所、ガステーブルの上など高温になる場所に取り付けしないでください。 火災、感電、漏電、故障の原因となります。
	【リモコン付のみ】リモコンケーブルの接続は、本体の漏電遮断器の電源スイッチを「切」(OFF)にしてから行ってください。 感電、故障の原因となります。
	点検窓は操作完了後、確実に閉めてください。 閉じ方が不完全の場合、水やほこりが侵入して漏電、感電、故障の原因となります。
	定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。 万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。
	長期間使用しない場合はタンクの水を抜いてください。 水質が悪化するおそれがあります。
	排水管は耐熱性のある材質のものを使用してください。 漏水の原因となります。
	飲用する場合は、やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。

ES-CMシリーズについて

本製品は一般の従量電灯料金に比べて割安な深夜電力を利用する電気料金のシステムに特化した電気温水器です。昼間使う分のお湯を、普段お湯を使わない深夜に沸かし上げを行ってタンクに貯めておくことで、省エネ・省コストを可能にします。

ES-CM（通電制御型）	
	<p>飲用以外の様々な用途に適した密閉型電気温水器です。</p> <p>関連商品のリモコンをお使いいただくことで「時間帯別電灯」や「季節別時間帯別電灯」の電力契約で使用でき、昼間に沸き増しを行うことも可能になります。(※1)</p> <p>リモコン操作タイプへ変更する場合はリモコンケーブルもご用意ください。(→ P.11 参照)</p> <p>点線部分は関連商品</p>

※1：リモコンを取り付けていない状態で「時間帯別電灯」、「季節別時間帯別電灯契約」で使用すると正常に動作しません。

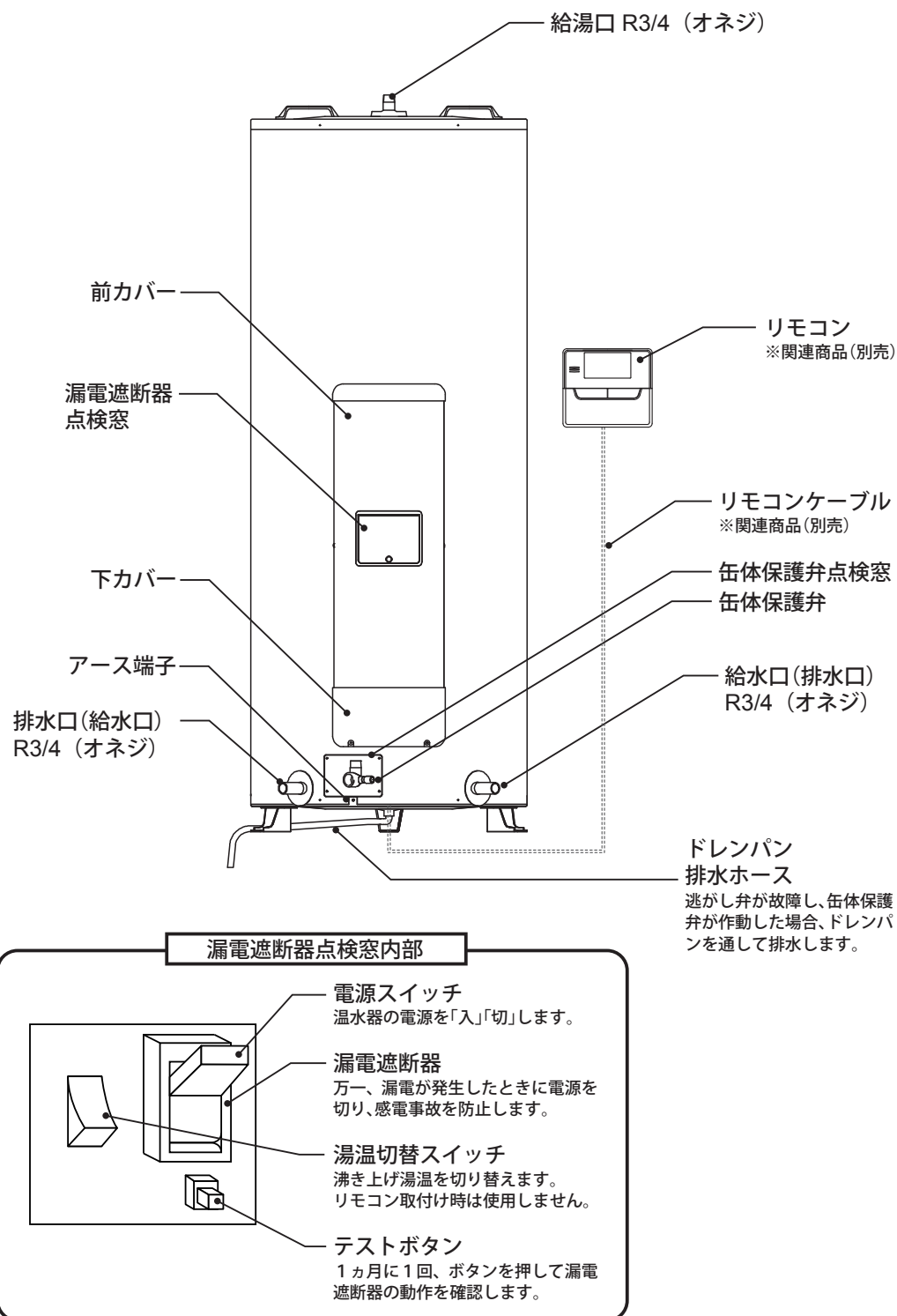
仕 様

項目 \ 型式		ES-300CM	ES-370CM	ES-460CM
定 格	電 圧	単相 200V		
	周 波 数	50 / 60Hz		
	ヒーター容量	3.4kW	4.4kW	5.4kW
貯 湯 量		300 ^{リットル}	370 ^{リットル}	460 ^{リットル}
本体質量(満水質量)		49kg (349kg)	50kg (420kg)	62kg (522kg)
最 高 使 用 圧 力		0.1MPa		
使用水压(静止時)		0.1 ~ 0.5MPa		
一次側使用水温		40℃以下(凍結しないこと)		
設 置 環 境 温 度		0 ~ 40℃(凍結しないこと)		
使 用 水 質		水道水		
設 置 場 所		屋 内		
安 全 装 置		漏電検出、過昇温検出、空焚き検出		
温 度 制 御		マイコン式		
設 定 温 度		約65 ~ 85℃★		
沸 き 上 が り 時 間 ※	給水温度 5℃の場合	493 分	470 分	475 分
	給水温度 15℃の場合	431 分	411 分	417 分
	給水温度 25℃の場合	370 分	353 分	357 分
タンク材質		高耐食ステンレス		

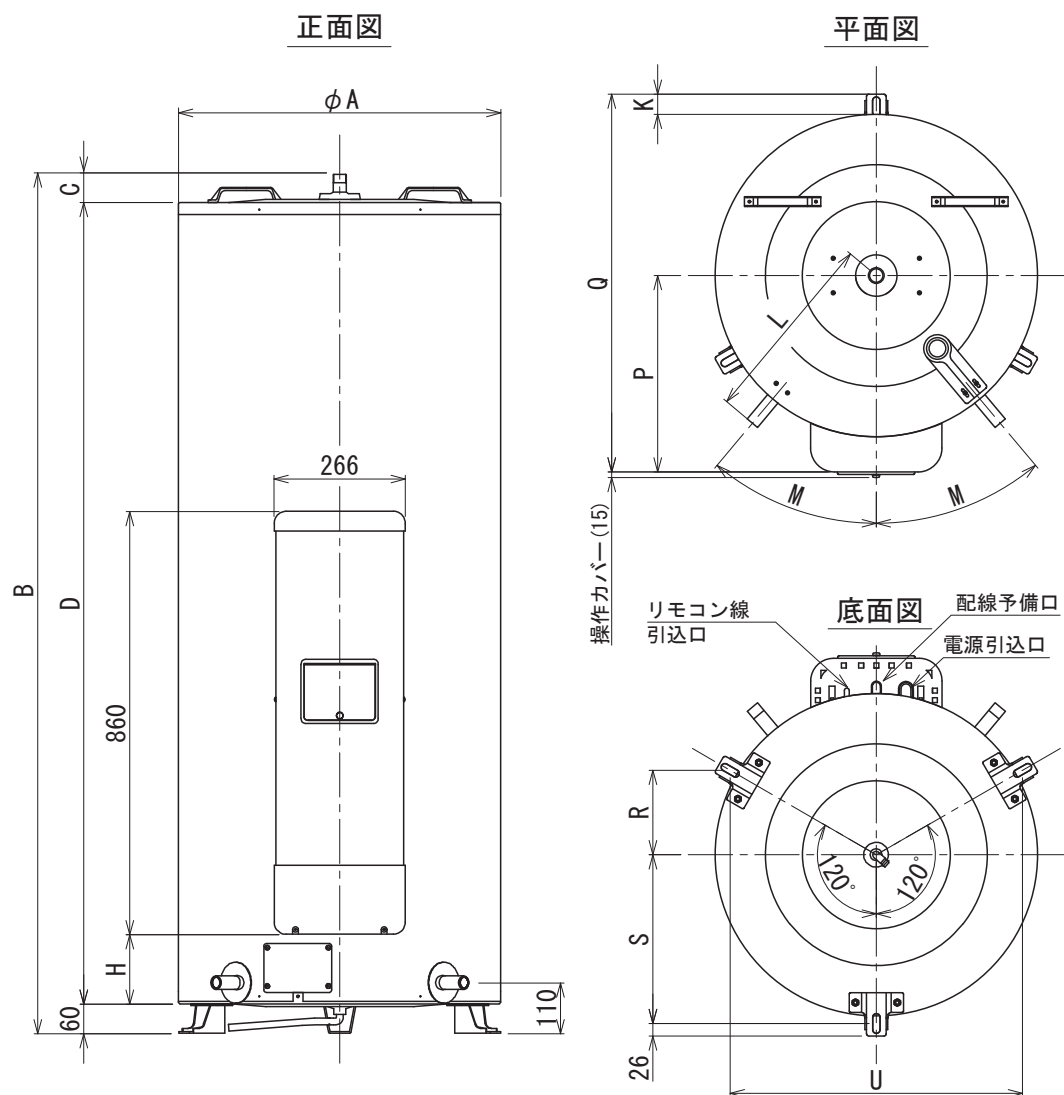
★リモコン無：湯温切替スイッチで「多め(約85℃)」と「おまかせ(約 65 ~ 85℃間の自動運転)」に切り替え可能。
 リモコン有：リモコンで「多め(約85℃)」、「おまかせ(約 65 ~ 85℃間の自動運転)」、「少なめ(約 65℃)」に切り替え可能。

※沸き上がり温度を85℃として算出

各部の名称と機能



本体寸法



(単位: mm)

型式	ES-300CM	ES-370CM	ES-460CM	型式	ES-300CM	ES-370CM	ES-460CM
A	$\phi 600$	$\phi 655$	$\phi 730$	P	372	399	436
B	1724	1744	1721	Q	705	766	841
C	47	57	50	R	151	171	190
D	1617	1627	1611	S	307	342	380
H	126	140	151	U	532	593	658
K	33	41	42				
L	360	391	411				
M	45.7°	40°	36.5°				

各部の名称と機能

ふたを閉めた状態

温水器の状況や設定等を表示します。→下記「液晶表示内容」参照。

沸き上げ設定ボタン
沸き上げ湯温を設定したい
時に押します。

リモコンの時刻設定をしてください。
取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

液晶表示部のバックライトを点灯させます。

バックライトについて
バックライトは充電方式です。充電には20分以上必要です。バックライトが暗い場合は充電量不足で故障ではありません。

ふたを開けた状態

運転休止ボタン ——
運転を休止する日数を設定
したい時に押します。

沸増 1日ボタン※ —
昼間に温水器のお湯を全量
沸き増ししたい時に使用し
ます。

タイマーボタン ——
タイマーを設定したい時に
押します。

沸上げ設定

ライト

 タイマー

分/▼

時刻
設定

現在時刻を合わせる時に使用します。

※沸増1日ボタン
深夜電力でお使いの時は、沸増1日ボタンは操作できません。

液晶表示内容

多め
おまかせ
少なめ

沸き上げ表示
多め、おまかせ、少なめの3種類があり、設定されているいずれか1つが表示されます。

運転休止

運転休止表示
お湯を沸かさない
日数(運転休止日
数)を表示します。

湯 殘

残湯量表示
タンク内に残っているお湯の量を表示します。

湯 殘

多め
おまかせ
少なめ
沸き増し 1日
漏水 23:

運転休止
 14日
 200V
 海上保安

200 V

電源表示
200V 電源供給中
に表示します。

沸上げ中

沸き上げ中表示
ヒーターに通電を行
い、沸かし上げを
している時に表示
します。

池を増し、1日

沸き増し表示
沸き増し設定をした
ときに表示します。

漏

漏水表示※
漏水検知時
表示します。

23:00

時計表示
現在時刻を表示します。
タイマーを表示します。

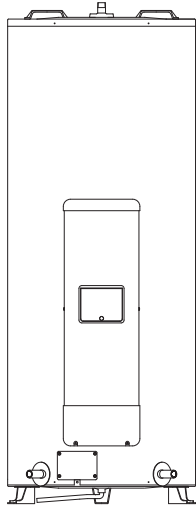

※漏水検知センサーを取り付けた場合のみ

工事要領

正しく取り付けるため、必ずこの手順に沿って施工してください。

施工前にご確認ください

1. 部品の確認

【製品本体】	【製品および付属品】
	<div> <div>  <p>工事要領・取扱説明書 製品名：遠征電力用 電気温水器 型式：ES-300,370,460CM</p> </div> <p>工事要領・取扱説明書×1 (この冊子です。当冊子は工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。)</p> </div> <div> <p>保証書×1</p> </div>

※詳細はP.9-10

【お客様にてご手配ください】

お客様手配品 (必ず事前にご用意ください。)

- ①混合水栓・・・・・・出湯するため必要です。
- ②止水栓・・・・・・排水やメンテナンス時に給水を止めるため必要です。
- ③配線用遮断器・・・・・・万一の故障した際の事故を防止します。
- ④アンカーボルト・・・・・・温水器を取り付ける際に必要です。(3本)
- ⑤給水、給湯、排水管・・・・・・温水器と接続するために必要です。
- ⑥六角ニップル・・・・・・配管接続する際に必要です。
- ⑦アース線、アース棒・・・・・・アース工事をするときに必要です。
- ⑧シールテープ・・・・・・配管接続部分から漏水させないために必要です。
- ⑨排水トラップ・・・・・・排水処理のために必要です。

関連商品 (→ P.19 『標準配管図』参照)

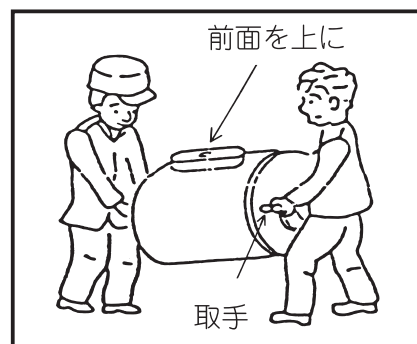
- ⑩逃し弁・減圧弁セット・・・・・逃し弁は加熱時の膨張水を排水し、タンク内が高圧になるのを防ぎます。減圧弁は水道水の圧力を一定にします。(当社指定品をご使用ください。)
- ⑪絶縁パイプセット・・・・・・給水、給湯管を絶縁するため必要です。
550mm×2 (給水・給湯用)
- ⑫リモコン・・・・・・時間帯別電灯契約／季節別時間帯別電灯契約をした場合に必要です。
- ⑬リモコンケーブル・・・・・・リモコンと温水器を接続するのに必要です。
- ⑭上部固定金具・・・・・・温水器上部を壁面に固定する際に使用します。
- ⑮漏水検知センサー・・・・・・漏水検知機能を使用する場合に必要です。

2. 運搬と開梱

- トラックで運搬するときは梱包状態のまま立積みで転倒しないように十分固定して運搬してください。
- 木枠梱包のまま、据付け場所の近くまで運搬してください。(温水器が傷つく心配がありません。)
- 温水器を吊り上げる場合は木枠の底面にバンドをかけて吊り上げてください。
- 据付け場所近くで開梱してください。(木枠はすべて釘止めです。)
- 取手は初期の据付までの運搬用です。
その後の使用では劣化により破損し、けがをするおそれがあります。
- 取手は運搬用以外には使用しないでください。
強い衝撃や無理な力を与えると取手が破損し、けがをするおそれがあります。

開梱後のご注意

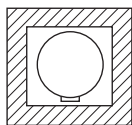
- 開梱後の運搬は本体上部の取手と下部の製品脚を持って行ってください。
- 本体の給湯管、給排水管は変形や破損のおそれがありますので持たないでください。
- 本体を横にしたまま放置したり、製品の上面に上がったり物を置かないでください。
- 強風による転倒にご注意ください。
- 製品、梱包材料などを廃棄する際には、法令などに基づいた適切な処置をお願いします。
- 温水器本体の上に乗らないでください。変形により、温水器内部に水が入り、故障することがあります。



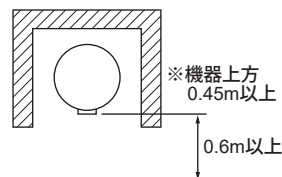
3. 設置場所の確認

- 温水器の設置場所は、配管距離を短くし放熱ロスを少なくするため、使用頻度(使用回数、使用湯量)の多い台所やお風呂の近くをお選びください。
- 湿気が多い場所、浴室等などには据付けしないでください。
漏電や感電のおそれがあります。
- メンテナンスを行えるスペースを確保してください。

【不良】スペースがないのでメンテナンスが正しくできない



【良】メンテナンスを行うスペースが十分にある



工事要領

施工前にご確認ください

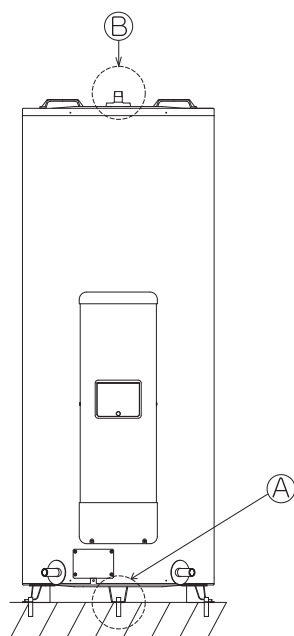
- 温水器を長年ご使用していると、本体及び配管から漏水をおこすおそれがあります。必ず、防水、排水工事をほどこした所に据付けてください。
- 温水器の満水質量に十分耐える基礎工事を行ってください。(P.8『仕様』参照)
- ガス機器から電気温水器へ変更する際は事前にガス業者へ連絡が必要となります。ガス業者への連絡をせずに無断撤去することは法令により規制されておりますのでご注意ください。
- 結露防止のため通気口を設け密閉室にしないでください。
- 浄化槽の近くには据え付けないでください。
- 定格電圧の± 10 % 以内でお使いください。

施工する

1. 設置工事

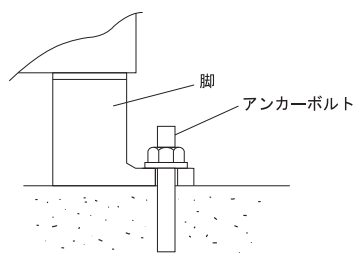
- 本体上部を固定する場合は、弊社関連商品の上部固定金具をお使いください。
- 必ず、本体の脚 3 箇所をアンカーボルトで固定してください。
- アンカーボルトは下記のものを使用してください。

		床固定 (A 部)	壁固定 (B 部)
設計用標準震度		1.0 以下	1.0 以下
アンカーボルト種類		あと施工金属拡張アンカーボルト (おねじ形)	
アンカーボルト径		M12	M10
埋込長さ (mm)	ES-300CM	60	45
	ES-370CM	60	45
	ES-460CM	60	45



①部

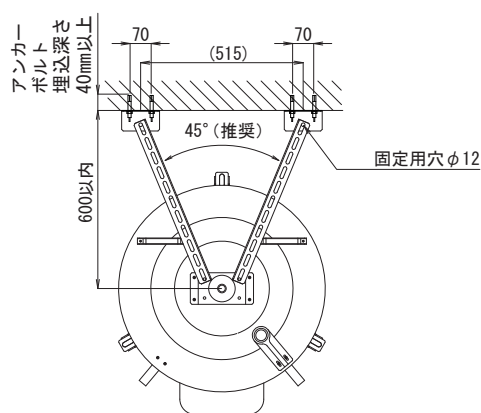
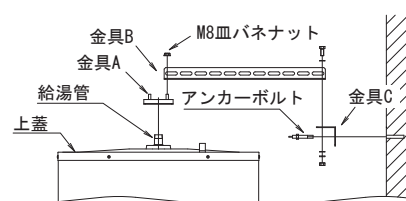
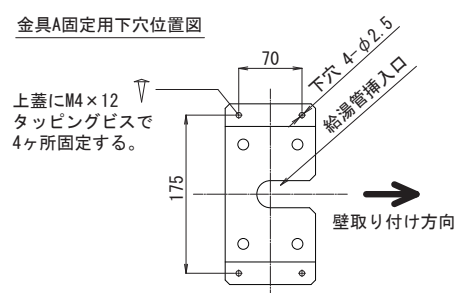
製品下部の脚に設けた穴にアンカーボルトを取り付けて固定します。



②部

関連商品の上部固定金具を用いて後方壁面に取り付けます。

金具A固定用下穴位置図



離隔距離

本製品は「消防法設置基準」に基づく試験基準に適合しております。建築物の可燃物等からの離隔距離は表に掲げる値以上の距離を保ってください。

※別途メンテナンススペースが必要です。

消防法 基準適合 組込形	
場所	離隔距離 (cm)
上方	0
左方	0
右方	0
前方	0
後方	0
下方	0

2. 配管工事

- 配管工事は、当該水道局の認定水道事業者が行ってください。
- 配管工事には、当社指定の関連商品を使用してください。指定部品を使用せずに事故、故障が生じた場合は責任を負いかねます。
- 温水器回りの配管は、保守、点検がしやすいように取付けてください。
- 混合水栓は温度安全性に優れたサーモスタット式をおすすめします。シャワーヘッド付混合水栓を使用する場合は、シャワーヘッドの構造により出湯量が極端に少ない場合がありますので、最低必要圧力、シャワーヘッドの仕様を確認して選定してください。
- 配管を施工する前に配管内をきれいに掃除し、温水器内にゴミが入らないようにしてください。
- 配管作業は必ずパイプレンチ 2 ヶを使用して温水器タンクに無理な力がかからないように十分注意してください。
- 給水・給湯配管は耐震性を考慮して、壁面等に固定してください。必要に応じてフレキシブル継手等を使用し、地震の際に配管が破損しないように施工してください。
- 給水・給湯・排水配管には冬期の湯温低下や凍結防止のために保温工事が必要です。配管工事終了後、漏水のないことを確認して行ってください。保温材は発砲ポリエチレン 20mm 程度、グラスウール 40mm 程度を使用してください。
- 保温工事をした部分は、保温材がぬれないようテープなどで防水処理をしてください。
- 水撃(ウォーターハンマー現象が発生する場合には、水撃防止装置の取り付けが必要となります。
- 鳥居配管をすると、配管途中にエア溜まりを生じますので避けてください。

給水配管

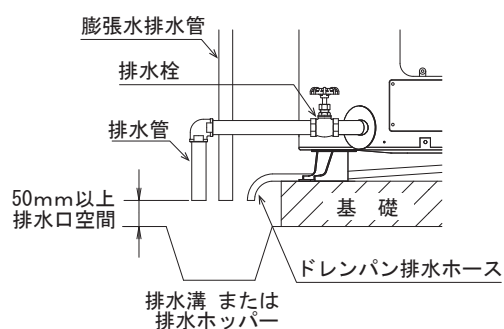
- 浴用または水気のある場所で使用する場合は、弊社関連商品の絶縁パイプを取り付けてください。
- 給水配管には、必ず温水器専用の止水栓を取付けてください。
- 減圧弁・逃し弁(関連商品)を必ず取り付けてください。P.19「標準配管図」参照。

給湯配管

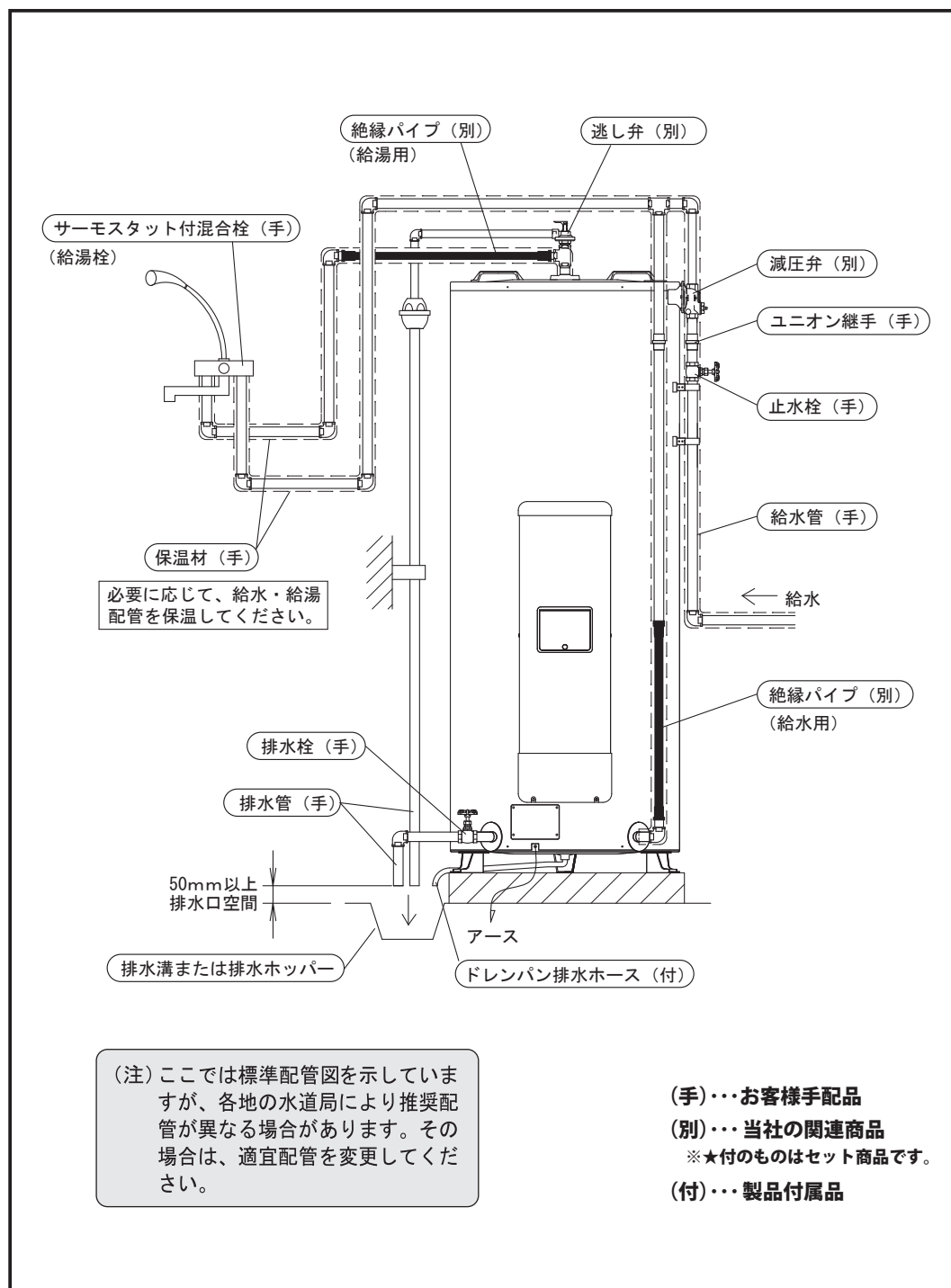
- 浴用または水気のある場所で使用する場合は、弊社関連商品の絶縁パイプを取り付けてください。
- 給湯配管中の必要な箇所に、ミキシングバルブを取り付けていただくか、サーモスタット式混合栓をご使用ください。

排水配管

- 沸き上げ中に排水口より膨張水が出ますので、必ず排水工事をしてください。
- 排水時に高温水が排水される場合があるので、耐熱性のある配管を使用してください。
- 排水管は1/50以上の下り勾配としてください。
- ドレンパン排水用のドレンホースは75cmの長さを取り付けてありますので、長すぎる場合は切断して排水溝または排水ホッパーに導いてください。ドレンホースおよび排水管の末端は常時大気開放になるよう排水口空間(50mm以上)を設けてください。
- 本体の排水口と床面の排水溝または排水ホッパーの位置を合わせてください。排水が排水溝からはみ出し外部へ漏れると大きな被害につながるおそれがあります。
- 必ず排水トラップを設置してください。



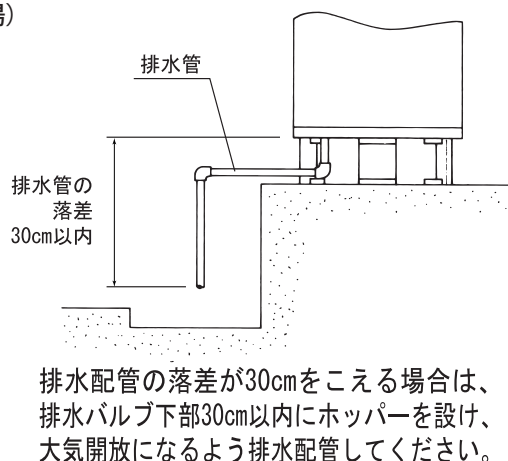
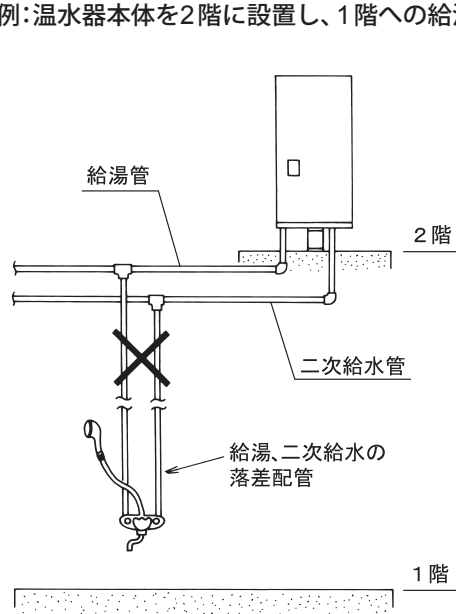
標準配管図



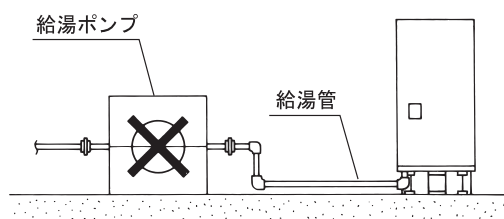
負圧注意事項

- ステンレスタンクは負圧(タンク内の圧力がタンク外の圧力より低いとき)がかかると変形しやすい特性があります。負圧によるタンク変形を避けるため、下記施工はしないようにしてください。

- ・温水器より低い場所への給湯配管はしない。
(例:温水器本体を2階に設置し、1階への給湯)
- ・排水管の落差は30cm以上にしない。



- ・温水器本体に給湯ポンプを接続しない。



凍結防止

- 保温工事がしてあっても、周囲温度が0℃以下になると配管は凍結する場合があります。機器や配管が破損する場合がありますので適切な凍結防止対策を施工してください。

【凍結防止対策例】

◇凍結防止ヒーター (市販品) による方法

- ①凍結のおそれがある配管すべてに巻いてください。
 - ②各配管の接続口まで巻いてください。
 - ③凍結防止ヒーターは何本も使用しますのでコンセントを適当な位置に設けてください。
- ※凍結防止ヒーターの施工については、凍結防止ヒーターに同梱の説明書にしたがって施工してください。

3. 電気工事

- 電気設備に関する技術基準および内線規定に基づき、指定工事業者が行ってください。
- 配線用遮断器および電線の太さは内線規定に定められたものを使用してください。
- 温水器内蔵の漏電遮断器は過負荷短絡保護型ではありませんので配線用遮断器を必ず取付けてください。
- 深夜電源 200V 配線は専用回路となりますので引込み工事は下図 1 のように行ってください。
- リモコン (関連商品) を取り付けることにより、深夜電力、時間帯別電灯、季節別時間帯別電灯の3つの電力制度対応となりますので引込み工事は下図 1、2 の様に行ってください。

図1 深夜電力の場合
ES-CMタイプ
ES-CMタイプ+リモコン

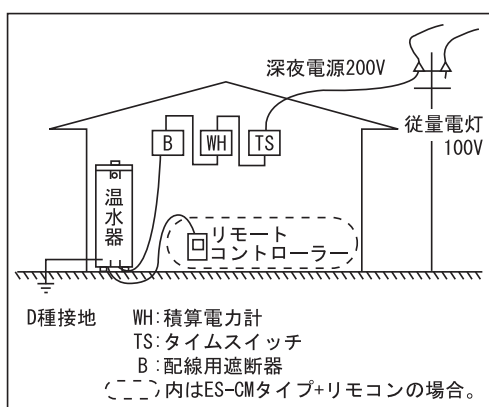
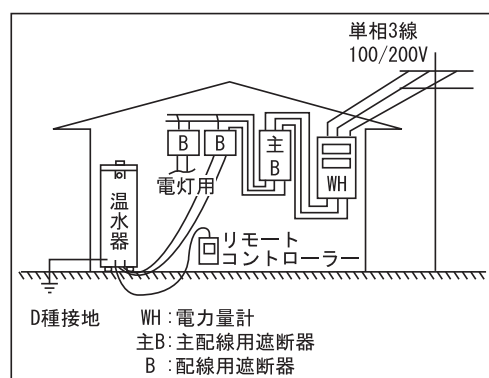


図2 時間帯別電灯/
季節別時間帯別電灯の場合
ES-CMタイプ+リモコン

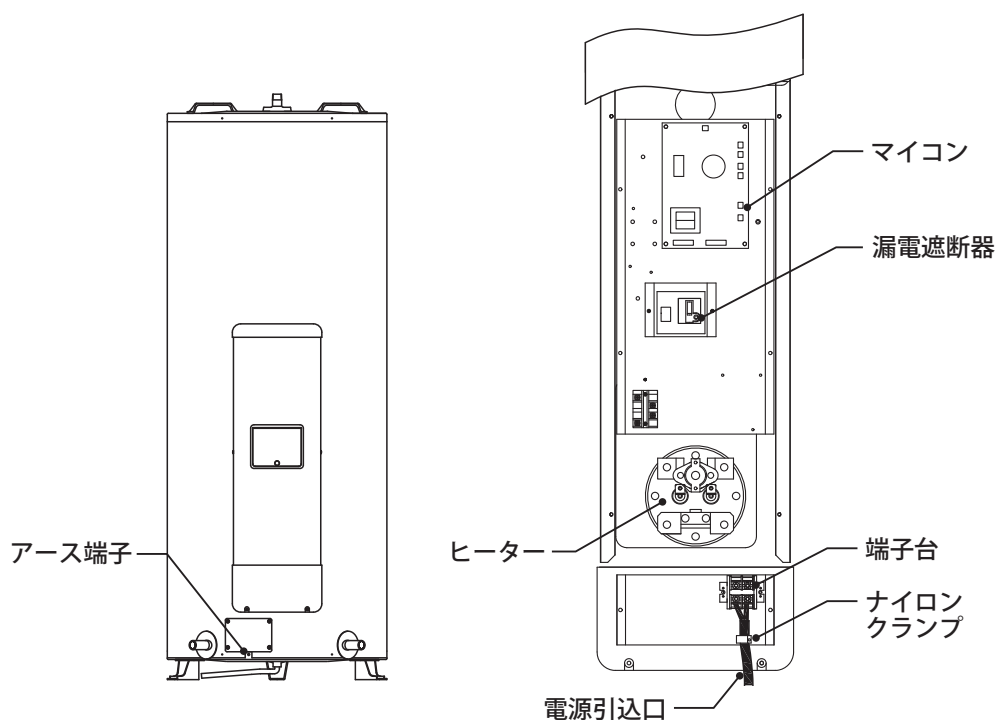


- 配線用遮断器、電源の太さなどは内線規定に定められた下表定格のものを使ってください。

型 式 名	定 格 (V)	ヒーター容量 (kW)	配線用遮断器 (A)	電源ケーブル の太さ	電源ケーブル の種類	アース線の 太さ
ES-300CM	200	3.4	30	5.5mm ² (Φ 2.6mm)	VV線	Φ 1.6mm
ES-370CM		4.4	30	5.5mm ² (Φ 2.6mm)	VV線	Φ 1.6mm
ES-460CM		5.4	40	8mm ² (Φ 3.2mm)	VV線	Φ 2.0mm

本体内電気工事

- 下カバーをはずし電源引込口よりケーブルを引き込んでください。
- 端子台に仮止めしている圧着端子にケーブルを圧着し、端子台に確実に取付けてください。
- ナイロンクランプで電源ケーブルを固定してください。
- リモコンを取り付ける場合は、前カバーもはずし配線を行ってください。(詳細→ P.23)



ご注意

ケーブルの温度上昇を防ぐためケーブルがヒーター部分に触れないようにしてください。

アース工事

- アース工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、必ず電気工事士によるD種接地工事を行ってください。
- 水道管、ガス管への接地、および他器具用アースとの併用はできません。
- 避雷針の接地と2m以上離してください。

- ①市販のアース棒とアース線を半田付け、または接続端子で接続します。
- ②アース線を温水器のアース端子に接続します。(上図参照)
- ③アース棒を湿気のあるところで地中 30cm 以上の深さに打ち込みます。

4. リモコン工事(リモコン付のみ)

取り付けるまえに

- 工事部品は、付属部品および純正部品をご使用ください。
- 時間帯別電灯、季節別時間帯別電灯契約のお客様はリモコンの時計設定を確実に行ってください。時計設定を間違った場合、電気料金が割高になるおそれがあります。

取付場所の選定

- リモコンを浴室など湿度の高い場所、屋外など雨の当る場所、ガステーブルの上など高温になる場所に取付けないでください。
- リモコンは、スイッチ操作が容易に行え表示が良く見えるところ(目の高さよりやや低い位置)に取付けてください。

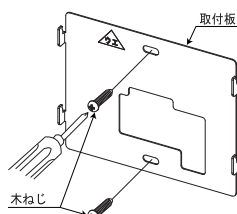
取付工事

- リモコンの取付け工事は専門の技術が必要です。販売店または工事店が行ってください。
- リモコンケーブル同士の中継は誤動作の原因となりますので行わないでください。
- リモコンケーブルの全長は20m以下としてください。
- リモコンケーブルは電源ケーブルと離して(約 5cm)配線してください。近いとノイズによる誤動作の原因となります。
- 電源ケーブルとリモコンケーブルを同一パイプ内で配線しないでください。
- リモコンケーブルの合計断面積が 0.5mm^2 以上となるように 0.3mm^2 のリモコンケーブルは心線を2つ折りにして圧着してください。

リモコンの取付け

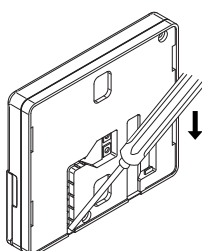
【壁取付けの場合】

- ① 取付板を付属の木ねじ（2本）で平坦な壁に固定します。

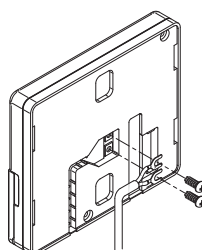


- ② リモコン本体裏面の下側にあるツメを取ります。

注 ツメはドライバー等を溝に入れて下方向に倒すか、ラジオペンチ等の先端でつまんで取ってください。

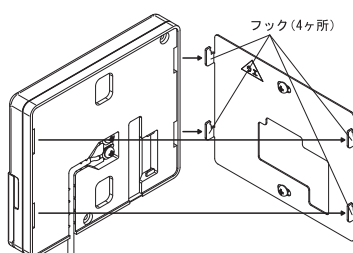


- ③ リモコンケーブル先端の被覆を約6mmむき、付属のY形圧着端子を加締めます。



- ④ リモコンにY形圧着端子（リモコンケーブル）をねじ止めします。

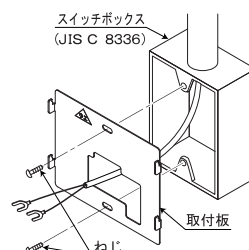
- ⑤ リモコン本体裏面の溝に取付板のフックを差し込み、下方向へスライドさせます。



【スイッチボックス取付けの場合】

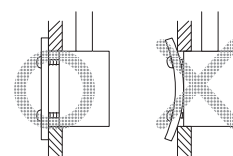
注 JIS C 8336の1個用スイッチボックスを使用してください。

- ① 取付板をスイッチボックス付属の木ねじ2本で固定します。



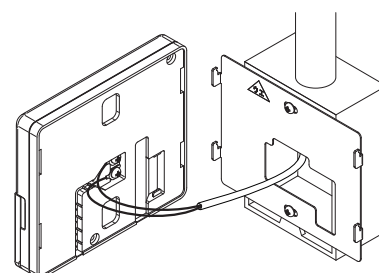
注 リモコン付属の木ねじは使用しないでください。

注 スwitchボックスが壁から奥に入っている場合は、無理に締め付けると取付板が反るおそれがあります。取付板が反らないよう締付けてください。



- ② リモコンケーブル先端の被覆を約6mmむき、付属のY形圧着端子を加締めます。

- ③ リモコンにY形圧着端子（リモコンケーブル）をねじ止めします。



- ④ リモコン本体裏面の溝に取付板のフックを差し込み、下方向へスライドさせます。

温水器本体とリモコンケーブルの接続

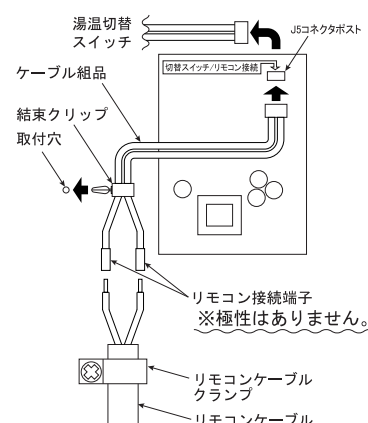
- ① 必ず配線用遮断器及び機器の漏電遮断器を「切」（OFF）にしてください。

- ② J5コネクタポストから、湯温切替スイッチのJ5コネクタハウジングを取り外します。

- ③ 付属のケーブル組品のJ5コネクタハウジングをJ5コネクタポストに差し込みます。

- ④ ケーブル組品に取り付けてある結束クリップを電装品の取付穴に差し込みます。

- ⑤ リモコンケーブルをリモコン接続端子へ加締めてください。
※ リモコンケーブルに極性はありません。
※ 加締め部からリモコンケーブルが抜けないことを必ず確認してください。
※ リモコンケーブルをクランプで固定してください。



5. 施工後の確認

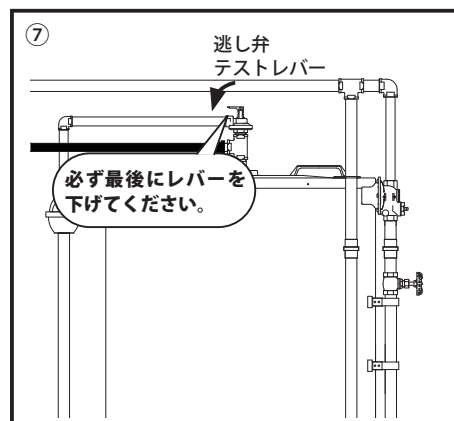
据付工事が完了しましたら、下記のチェック内容をご確認ください。
不都合がありましたら、必ず直してください。

項 目	チェック内容	チェック
設置工事	本体脚部(3ヶ所)はアンカーボルトで固定していますか？	<input type="checkbox"/>
	点検、メンテナンススペースは十分に確保されていますか？	<input type="checkbox"/>
	近くに引火物、火気(ガス類容器など)を置いていませんか？	<input type="checkbox"/>
	防水処理、及び漏水時の排水処理をしていますか？	<input type="checkbox"/>
配管工事	温水器専用止水栓、減圧弁、逃し弁は適切な位置に取り付けていますか？	<input type="checkbox"/>
	排水口は排水溝又は排水ホッパーの上にありますか？	<input type="checkbox"/>
	排水口と排水溝又は排水ホッパーのあふれ面の間隔は50mm以上開いていますか？	<input type="checkbox"/>
	給水、給湯配管に絶縁パイプを取り付けていますか？(浴用または水気のある場所で使用する場合のみ)	<input type="checkbox"/>
	配管各部からの漏水はありませんか？	<input type="checkbox"/>
	排水管材は耐熱性の材料になっていますか？	<input type="checkbox"/>
	ドレンホースを排水ホッパーまたは排水溝に導いていますか？	<input type="checkbox"/>
	保温工事、あるいは凍結防止工事がなされていますか？	<input type="checkbox"/>
電気工事	タイムスイッチ、配線用遮断器(ブレーカ)の定格は十分ですか？	<input type="checkbox"/>
	アース(D種接地)工事は確実ですか？	<input type="checkbox"/>
	リモコンケーブルと温水器の接続は適切ですか？(リモコン付のみ)	<input type="checkbox"/>
	契約した電力制度に応じて、基板のコネクタは適切ですか？(P.27「通電確認」参照)	<input type="checkbox"/>

試運転を行う

1. 温水器に給水する

- ①排水栓が閉まっていること、逃し弁テストレバーが下がっていることを確認します。
- ②混合栓を開きます。
- ③給水配管の止水栓を開きます。
- ④給水配管の止水栓を開いたまま水の量が安定するまで流し続けます。
 - ・タンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。
 - ・水の量が安定したら配管内の汚れをタンク内から排出するため、そのまましばらく流し続けてください。
- ⑤混合栓を閉め、配管接続部から漏水がないか確認してください。
- ⑥逃し弁のテストレバーを上げ、逃し弁が正しく動作するか確認します。
※確認後はレバーを必ず元に戻してください。(逃し弁から水が排出され続け、設定温度に沸かし上げることが出来ません。)
- ⑦減圧弁ストレーナ部のゴミつまりを点検します。(P.42『減圧弁ストレーナーの清掃』参照)

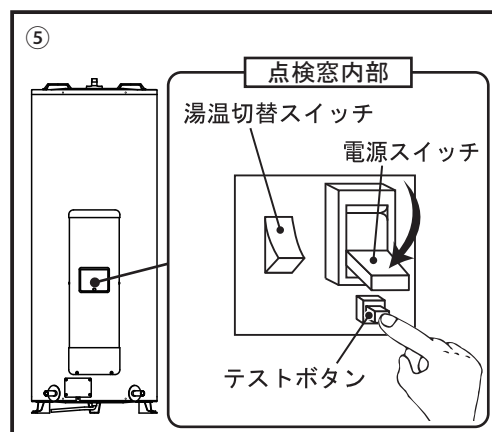


ご注意

逃し弁からの漏水は、一時的なゴミかみが原因のことがありますので、レバーを2～3回上げ下げて漏水が止まることを確認してください。

2. 漏電遮断器の動作確認

- ①配線用遮断器をONにして、温水器に電源を供給します。
- ②点検窓のネジをゆるめて点検窓を開けます。
- ③漏電遮断器の電源スイッチをONにしてください。
- ④テストボタンを押してください。
- ⑤電源スイッチレバーがOFFになることを確認してください。
- ⑥動作が確認できたら、電源スイッチレバーをONに戻し、点検窓をしっかりと閉めてください。



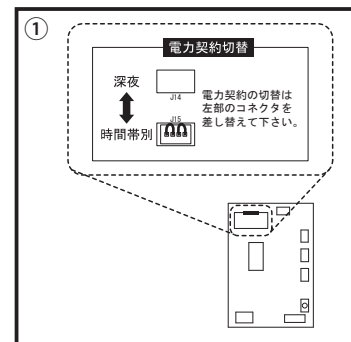
3. 通電確認

深夜電力でご使用の場合

- ①電力会社の了解を得て、タイムスイッチを通電状態にしてください。
- ②配線用遮断器及び本体漏電遮断器の電源スイッチレバーを「ON」にしてください。
- ③関連商品のリモコンを取り付けた場合、充電のため5分以上の通電が必要です。充電されるとリモコンの液晶表示部に表示されます。(リモコンを使用しない場合は充電の必要はありません)
- ④リモコンにて時刻設定を行います。はじめは「00:00」点滅状態になっていますので、「時刻設定」ボタンを1秒以上押します。その後「時」「分」ボタンにて時刻を設定してください。現在時刻を合わせたら「時刻設定」ボタンを押して時刻を確定してください。時刻が点灯状態になれば完了です。
- ⑤電力量計の円板が回転していることを確認してください。
- ⑥タイムスイッチの時間を現在時刻に戻してください。

時間帯別電灯でご使用の場合(関連商品のリモコンが必要です。)

- ①温水器のマイコンにある電力契約切替コネクタを時間帯別に挿し替えてください。
- ②配線用遮断器及び本体漏電遮断器の電源スイッチレバーを「ON」にしてください。
- ③リモコンへの充電のため5分以上の通電が必要です。充電されるとリモコンの液晶表示部に表示されます。
- ④リモコンにて時刻設定を行います。はじめは「00:00」点滅状態になっていますので、「時刻設定」ボタンを1秒以上押します。その後「時」「分」ボタンにて時刻を設定してください。現在時刻を合わせたら「時刻設定」ボタンを押して時刻を確定してください。時刻が点灯状態になれば完了です。
※時刻が設定されていないと沸かし上げは行いません。



ご注意

現在時刻は電力量計の時刻に合わせてください。時刻設定が間違っていると電力料金が高くなるおそれがあります。

- ⑤リモコンで沸増1日ボタンを押します。リモコンの液晶表示部に「沸き増し1日」が表示されます。その後、「沸上げ中」が表示されヒーター通電が開始されます。
- ⑥通電確認時、リモコン表示部に「沸上げ中」が表示されず故障表示「04」が点滅しているときは、タンク内が満水状態になっているか確認願います。満水になっていなければ満水にしてください。
- ⑦タンクを満水にした後、温水器の制御基板のリセットボタンを押してください。

夜間時間帯を変更する

お客様がご契約されている電力会社の電気料金プランに合う夜間時間帯に変更してください。

出荷時の 設定時刻	開始時刻	23:00
	終了時刻	07:00


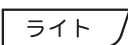




【お願い】

- 電気料金プランについてはお客様がご契約されている電力会社にお問い合わせください。

【お知らせ】

- 開始時刻・終了時刻は1時間単位での設定です。
- 終了時刻は開始時刻から12時間を超えて設定できません。
- 夜間時間帯変更中は「時刻設定」・「時」以外のボタン操作を受け付けません。
- 夜間時間帯変更中に60秒以上ボタン操作がされないときは、設定変更せずに元の画面に戻ります。
- 変更した時刻がお客様がご契約されている電気料金プランと合っていないと、電気料金が割高になる場合があります。
- 変更した開始時刻と終了時刻の時間差が小さいと、全量沸き上がらない場合があります。
- 深夜電力B契約でお使いの場合は、ご利用できません。
- 沸き増し1日設定の終了時刻が、変更した夜間時間帯の終了時刻に変わります。

【設定方法】

- 1  と  を同時に5秒以上押す。
- 2  を押して開始時刻を選択し、 を押す。 01：開始時刻
- 3  を押して終了時刻を選択し、 を押す。 02：終了時刻

4. 試運転後の確認

- 試運転が完了しましたら、下記のチェック内容をご確認ください。

項 目	チェック内容	チェック
漏 水	配管各部からの漏水はありませんか？	<input type="checkbox"/>
減圧弁ストレーナー	ストレーナーの中にゴミつまりはないですか？	<input type="checkbox"/>
給 湯	混合栓を開くとお湯が出ますか？	<input type="checkbox"/>

試運転後はP.42を参照し、ストレーナーの清掃を行ってください。

以上で、施工終了です。

本書をお客様にお渡しいただき、次のことをご説明ください。

- 漏電遮断器の動作点検、タンク内部の清掃、逃し弁の点検、止水栓の位置など現品による説明。
- 冬期凍結予想時の凍結防止方法の説明。
- 定期点検(有料)の必要性(長期間のご使用により部品の故障が起きることがあります。故障する部品によっては感電、やけど、漏水などのおそれがあるため事前に点検する。)の説明。

工事要領

MEMO

取扱説明

正しく安全にお使いいただくため、必ずお読みください。

使用方法

使用前の準備

設置工事は工事店が行いますが、ご使用前の準備はお買い上げの販売店、工事店等とお立ち会いの上で「工事要領」(P.12～)に沿って行ってください。

①配管の流し洗い

新設時は工事の際の切削油等が流入することがありますので、水をしばらく出し続けて流し洗いをしてください。

②温水器への給水

給水は試運転時に専門の業者が行います。タンク内の水を抜いた後に給水が必要になった場合、販売店または工事店にご依頼ください。業者の方はP.41「給水のしかた」を参考に給水を行ってください。

③【リモコン付の場合】時計を合わせる → P.33「リモコン使用方法」参照

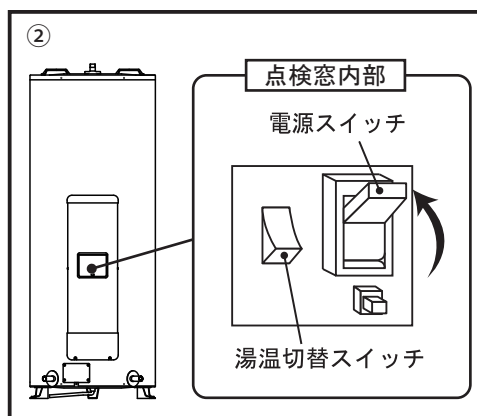
現在時刻が正しく設定されているかご確認ください。時刻設定が行われていないと、ヒーターに通電されないため、お湯が沸き上がりません。

温水器への通電(お湯を沸かす) ※リモコン無しの場合

- ① 温水器への給水が完了したことを確認した後、点検窓のネジをゆるめて点検窓を開けます。
- ② 電源スイッチレバーを上げて「ON」にします。
- ③ 湯温切替スイッチで沸き上がり湯温を設定します。→下記「湯温切替スイッチの使い方」参照。
- ④ 点検窓をしっかりと閉めます。



点検窓は操作完了後、確実に閉めてください。閉じ方が不完全な場合、水が浸入して感電、故障の原因となります。



- ⑤ 夜間の通電時間になると自動的に沸かし上げを開始し、翌朝にはお湯が沸いています。

ご注意：夜間沸かし上げ開始時間(出荷時設定は23:00)以降にお湯を使うと設定温度まで沸き上がらない場合があります。また、厳冬期や残湯量が少なく給水温度が約10℃以下と低い場合にも設定温度まで沸き上がらない場合がありますので、ご注意ください。

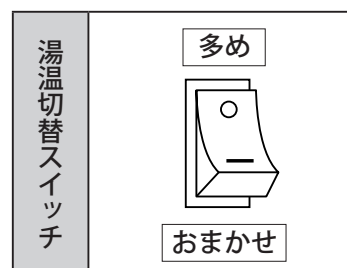
湯温切替スイッチの使い方

湯温切替スイッチを切り替えることで、沸き上がり温度を変更することができます。お湯のご使用状況に合わせて適宜切り替えてお使いください。

設定	沸き上がり温度
多め	約85℃
おまかせ*	約65℃～85℃

*おまかせ設定は、過去の使用量から翌日の使用量を予測して沸き上がり温度を自動で設定します。

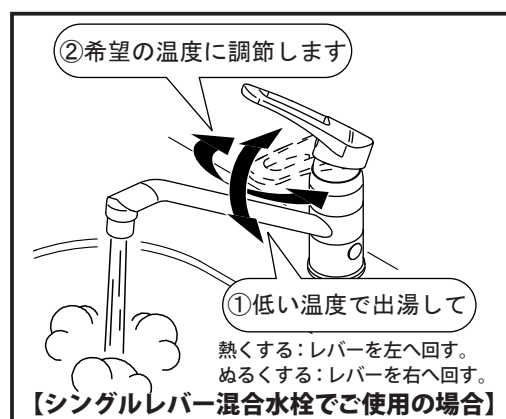
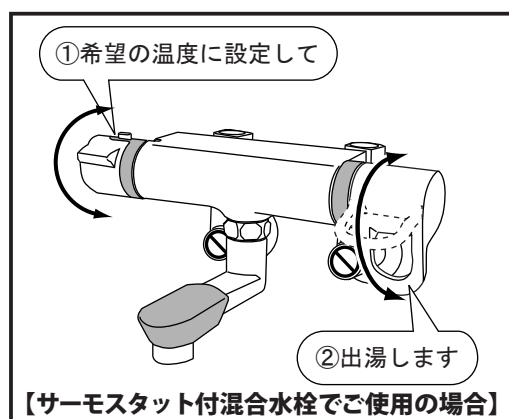
- ・沸かしすぎによる電気の無駄遣いを防ぎ維持費を節約するため、日常の使用湯量に合わせて湯温設定をしてください。
- ・湯温切替スイッチは深夜電力供給時間前にセットしてください。
- ・リモコン付の場合は、湯温切替スイッチによる設定変更はできません。



お湯を使う

給湯栓を開くだけでお湯が出ますが、お湯だけで使用するとやけどをしたり流し台や浴槽を傷める場合がありますので、必ず低い温度で出湯してから、適温に調節してお使いください。

給湯栓による湯温調節



断水時には止水栓（給水バルブ）を閉めてください。
破損や故障の原因となります。



お湯の上手な使い方について

毎日の使用湯量がほぼ一定していると維持費が節約できます。

入浴は連続して入るようにしましょう。

お風呂の足し湯は浴槽内のお湯を減らしてから行ってください。

洗い物をする場合、流し洗いは避けて容器に受けて使いましょう。

通電時間中に大量のお湯を使用しないでください。翌日の湯温が低くなるおそれがあります。

本製品は貯湯式のため、一日に使用できるお湯の量には限りがあります。特に冬季は水温も低く、無駄にお湯を使用しますと湯量不足になりますので、ご注意ください。

お湯の使用量に見合った温度設定を行うと経済的です。

来客等で使用湯量が急増する際は、前もって沸き上げ設定を「多め」に切り替えてください。

温度設定は翌日のお湯の使用量を考えて設定してください。

冬季の使用（凍結防止策）について

保温工事がしてあっても、周囲温度が0℃以下になると配管は凍結します。機器や配管が破損する場合がありますので、設備管理者様へ相談し適切な凍結防止対策をしてください。

【凍結防止ヒーター（市販品）による方法】

- ①凍結防止ヒーターが巻かれているか確認してください。
- ②使用するときは、すべてのプラグをコンセントに差し込みます。
- ③凍結しない季節はコンセントからプラグを抜いてください。

【少量の水を流し続ける方法】

蛇口からお湯を少しずつ（雲が落ちる程度）出湯してください。

リモコン使用方法

リモコンを取り付けた際の操作方法です。**温水器を快適に正しくお使いいただくため、必ず手順に沿って行ってください。**

リモコンを使用する際は、充電のため5分以上の通電が必要です。充電が不足しているときは、正常に動作しない場合があります。

液晶バックライトについて

リモコンのボタン操作を行うと自動的に点灯します。ボタン操作が終われば約10秒後に自動的に消灯します。
温水器が故障したときなどは点灯してお知らせします。

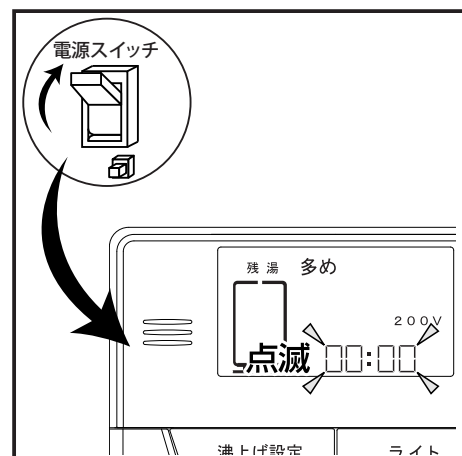
ブザーについて

リモコンのボタン操作のたびに「ピッ」と鳴ります。
温水器が故障したときなどには「ピッピッピッ」と鳴り、お知らせします。

時計を合わせる 例) 15時30分に合わせる場合

- 時間帯別電灯、季節別時間帯別電灯契約でご使用の場合は、時計の時刻を合わせないと沸かし上げができませんので、必ず時計の時刻を合わせてください。
- 深夜電力契約でご使用の場合は時計設定、時刻表示はできませんのでご注意ください。
- 正しい時刻に設定されていない場合電気代が割高になりますのでご注意ください。
- 時刻は24時間表示です。昼の12時は「12:00」、夜の12時は「0:00」を表示します。

- ① 一次側配線用遮断器および温水器本体の電源スイッチを上げて「ON」にします。しばらくして液晶の時計表示部に「00:00」が点滅していることを確認してください。



- ② リモコンのふたを開け、「時刻設定」ボタンを1秒以上押して時計合わせを開始します。

時計の合わせ方

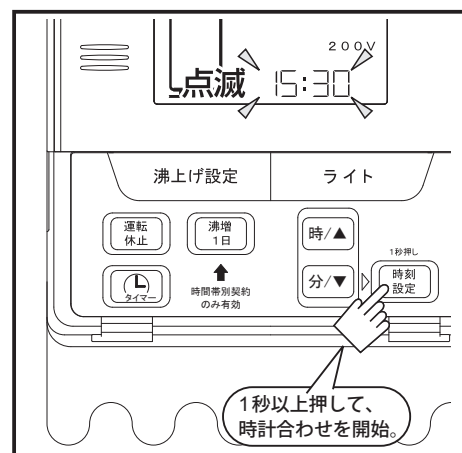
時 **分** ボタンで現在時刻に合わせます。

時 ボタン

時の位が 0 → 1 → 2……23

分 ボタン

分の位が 00 → 01 → 02……59



- ③設定した時間を確認し、「時刻設定」ボタンで確定します。(時刻が確定されると点滅から点灯に変わります。)

再度設定する場合には、②③を繰り返して操作してください。



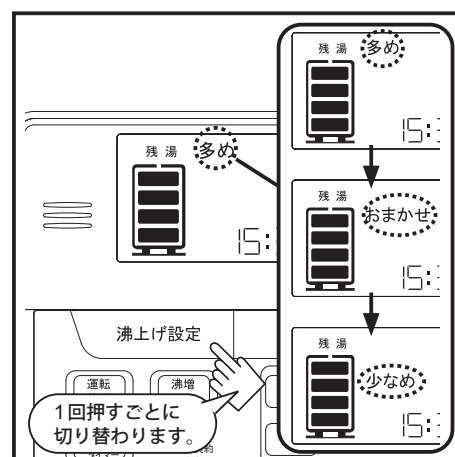
沸き上げ温度の設定をする

- ①ふたを開けて「沸上げ設定」ボタンを押してください。

ボタンを押すたびに「多め」、「おまかせ」、「少なめ」が切り替わります。







設定	沸き上がり温度
多め	約 85℃
おまかせ	約 65℃～85℃
少なめ	約 65℃

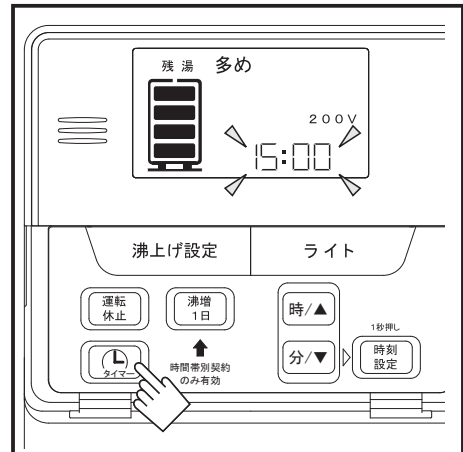
給水温度が低い場合(約 10℃以下)は、沸き上げ温度が設定より若干低くなることがあります。



タイマー機能について

リモコンには、キッチンタイマーがあります。
お湯はり時等にご使用ください。

- 1  を押します。
時刻表示が点滅し、タイマー設定画面になります。
- 2   を押し、時間を選択します。
設定可能範囲は 0 ～ 30 分
- 3  または  を押すと
時間が設定されタイマーが一起動します。
- 4 表示が 00：00 になったらブザーでお知らせ
- 5 タイマーを途中でやめる場合、 を押します。
タイマー表示が消灯し、時計表示が点灯します。



【お知らせ】

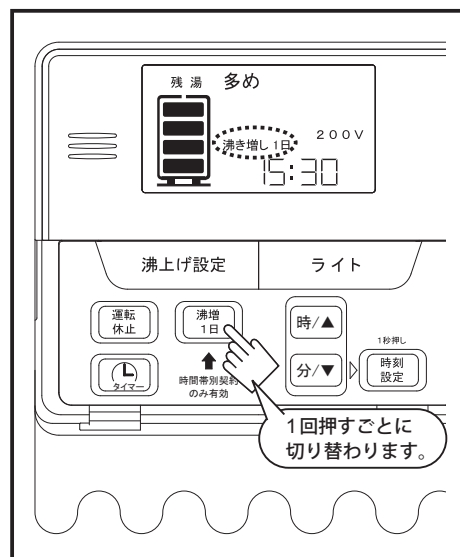
- タイマーは1分刻みの設定です。
- 2回目以降は前回設定された時間が表示されます。
- 変更中に10秒以上スイッチ操作をしないとタイマーを起動させず元の画面に戻ります。
- 時刻表示が点滅時タイマー機能は使用できません。
- リモコンエラー表示が発生した場合、設定時間になってもブザーが鳴らない場合があります。

沸き増し設定をする 時間帯別電灯、季節別時間帯別電灯のみ設定可能

- ①ふたを開けて「沸増 1日」ボタンを押してください。
(液晶表示部に「沸き増し 1日」が表示されます)
- 解除するにはもう一度「沸増 1日」ボタンを押してください。

沸き増しのしくみ

動作内容	解除方法
設定した1日間は、常に貯湯タンクがお湯で満タンになるように、沸き増しを行います。	手動解除を行うか、夜間時間帯終了時刻になると解除されます。



夜間時間帯を変更する

お客様がご契約されている電力会社の電気料金プランに合う夜間時間帯に変更してください。

出荷時の 設定時刻	開始時刻	23:00
	終了時刻	07:00

【お願い】

●電気料金プランについてはお客様がご契約されている電力会社にお問い合わせください。

【お知らせ】

- 開始時刻・終了時刻は1時間単位での設定です。
- 終了時刻は開始時刻から12時間を超えて設定できません。
- 夜間時間帯変更中は「時刻設定」・「時」以外のボタン操作を受け付けません。
- 夜間時間帯変更中に60秒以上ボタン操作がされないときは、設定変更せずに元の画面に戻ります。
- 変更した時刻がお客様がご契約されている電気料金プランと合っていないと、電気料金が割高になる場合があります。
- 変更した開始時刻と終了時刻の時間差が小さいと、全量沸き上がらない場合があります。
- 深夜電力B契約でお使いの場合は、ご利用できません。
- 沸き増し1日設定の終了時刻が、変更した夜間時間帯の終了時刻に変わります。

【設定方法】

- 1 **時刻設定** と **ライト** を同時に5秒以上押す。
- 2 **時/▲** を押して開始時刻を選択し、**時刻設定** を押す。 **01**：開始時刻
- 3 **時/▲** を押して終了時刻を選択し、**時刻設定** を押す。 **02**：終了時刻

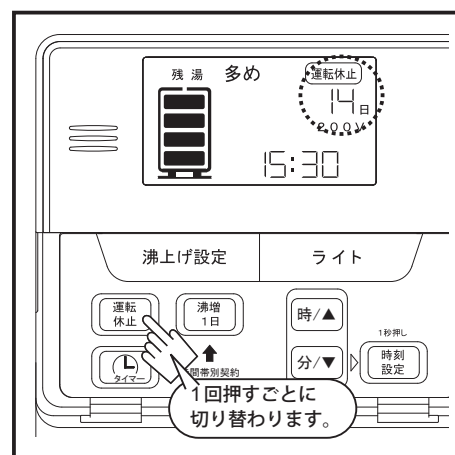
沸き上げを休止する

- ①ふたを開けて「運転休止」ボタンを押してください。
(液晶表示部に「運転休止 1日」が表示されます)

さらに1回押すたびに、

2日→3日→…14日→88日※→解除(表示なし)
に順次設定が変わります。(※「88日」は、日数指定なしで無期限運転を休止します。)

運転休止中に運転を再開したい場合は、再度「運転休止」ボタンを押していき、表示なしの状態にしてください。



沸き上げ休止とは…

旅行等でお湯を使わない場合などに運転を停止する機能で、連続して14日間の停止ができます。

設定された日数は深夜電力時間帯終了時に1日ずつ減っていきます。

設定した休日日数の表示がなくなると運転を再開します。

深夜時間の沸き上げ中(ヒーター通電中)に運転休止設定をすると、その時点から運転を休止します。

運転休止設定日数の計算のしかた

宿泊日数から1日を引いた日数を設定すれば、帰宅した日からお湯が使えます。

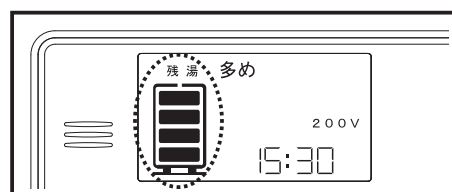
例) 3泊4日の場合、3泊-1日=2日休止で設定します。

宿泊日数	休止設定日数
1泊	休止する必要はありません
2泊	1日
3泊	2日
…	…
15泊	14日
連続	88日

温水器のお湯の量を確認する

液晶表示部で48℃以上のお湯の残湯量を確認することができます。

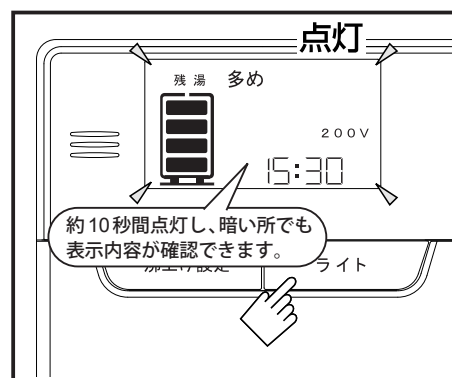
タンク内の湯の温度が47℃以下の場合、残湯量に関係なく表示が消えますのでご注意ください。



残湯表示					
残湯量の目安 (300Lの場合)	75L 未満	75L 以上 150L 未満	150L 以上 180L 未満	180L 以上 240L 未満	240L 以上
残湯量の目安 (370Lの場合)			150L 以上 210L 未満	210L 以上 280L 未満	280L 以上
残湯量の目安 (460Lの場合)				210L 以上 300L 未満	300L 以上

バックライトを点灯する

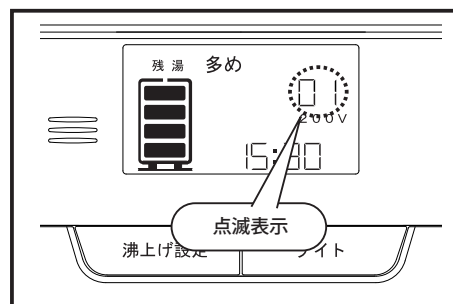
- ①「ライト」ボタンを押すとバックライトが約10秒間点灯します。



故障表示

- ・エラーが発生すると、リモコンに下記の数字が点滅します。
- ・バックライトが点滅し、ブザーがピッピッピッと鳴ります。

故障が表示された場合は、アフターサービス窓口までご連絡ください。



点滅数字	異常内容	処置方法
01	各センサー部回路の異常	お湯の沸き上げをしません。 アフターサービス窓口までご連絡ください。
02		
03		
04		
05		
06		
09	200V 電源異常 (200V 電源が17時間以上 通電されないとき)	漏電遮断器、配線用遮断器がOFFになっていないか ご確認ください。OFFの場合はONにしてください。 200V 電源が通電されると自動的に表示は消えます。
11	本体～リモコン の通信異常	お湯の沸き上げはしますが修理が必要です。 アフターサービス窓口までご連絡ください。
12	漏水検知 ^{※1} (漏水検知センサーが 漏水を検知したとき)	

※1：漏水検知は、関連商品の漏水検知センサーを取り付けている場合のみ発報します。

お手入れの方法

保守点検項目と実施の目安

点検項目	点検内容	点検の目安
漏電遮断器の動作確認	内蔵の漏電遮断器にあるテストボタンを押して、漏電遮断器の動作を確認してください。(P.26『漏電遮断器の動作確認』参照) 確認後は漏電遮断器のレバーをONにしてください。	1回/月
逃し弁の動作確認	逃し弁の動作不良による漏水を防止するために、正常動作の確認は絶対必要です。逃し管から常時水が出ていないか確認してください。(P.41『逃し弁の動作確認参照』)	
漏水全般についての点検	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	1回/日
タンク内部の清掃	長期間の使用でタンク内に汚れがたまる場合があります。1年に1回、タンク内の水を強制的に入れ替えてください。(当ページ『長期間使用しないときは』参照)	1回/年

長期間使用しないときは 管理技術者の方

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

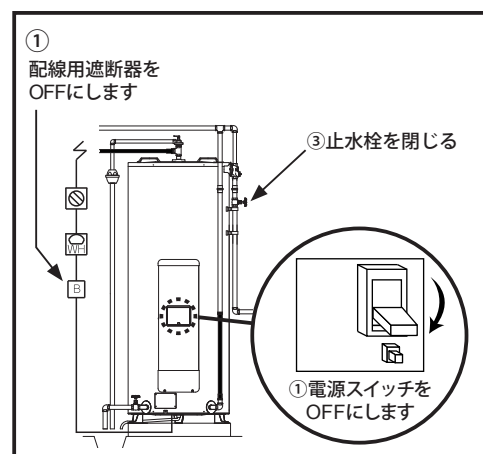
長期にわたって温水器をご使用にならない場合には、水質劣化を防ぐため、また負圧事故によるタンクの破損を防ぐため、下記の手順に従ってタンク内のお湯を必ず抜いてください。

ワンポイント

P

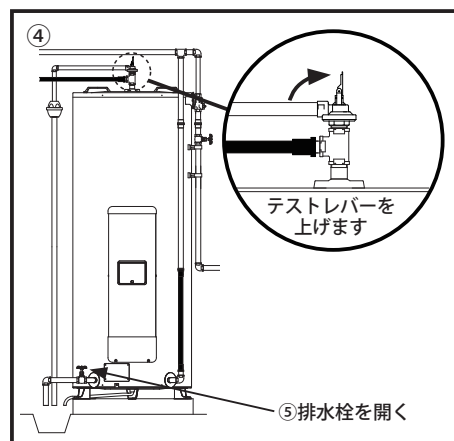
負圧とは・・・
タンク内の圧力が大気圧を下回った状態をいいます。断水中や給水量が少ない状態で排水を行ったときに発生します。
また、階下給湯(温水器より低い場所への給湯)は、同様の状態となるため、タンクを破損させる原因になります。

- ①配線用遮断器と本体電源スイッチをOFFにしてください。
- ②タンク内のお湯を水にするため、混合水栓より出湯してください。
- ③止水栓を閉じてください。

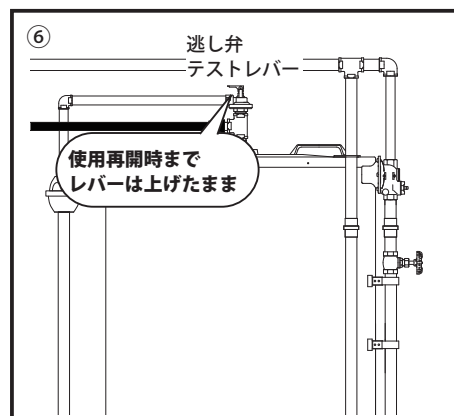


④混合栓の湯側を全開にして、逃し弁のテストレバーを上げてください。

⑤排水栓を開いてください。



⑥排水が終了したら、混合栓・排水栓を閉めてください。逃し弁のテストレバーはご使用再開時まで上げたままにしてください。



水を抜くときはゆっくりと栓を開いてください。
やけどのおそれがあります。



排水直後に逃し弁のレバーを下げないでください。
タンク破損の原因となります。

短期間使用しないときは

●短期間使用を停止する場合

- ・本体電源スイッチをOFFにしてください。その際、止水栓は閉めないでください。
※タンクが負圧になり破損する原因となります。

●停電の場合

- ・温水器の操作、止水栓の開閉等、機器や配管に対して処置をする必要はありません。
停電からの復旧をお待ちください。

●断水したときや、短時間の断水の連絡があった場合 **管理技術者の方**

- ※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。
- ・止水栓を閉め、お湯の使用を停止してください。その際、本体電源スイッチはOFFにしないでください。
※タンクが負圧になり破損する原因となります。

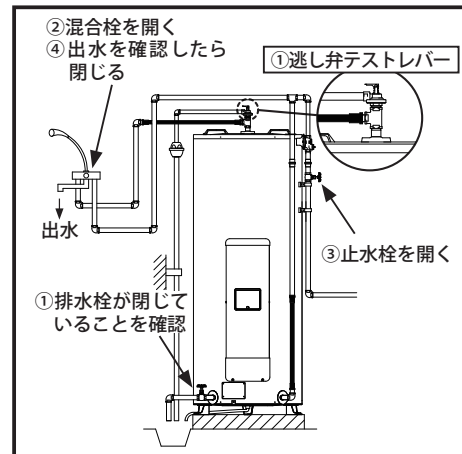
●長時間(8時間以上)の断水の連絡があった場合 **管理技術者の方**

- ※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。
- ・事前に「長期間使用しないときは」の手順①～③を実施してください。
※タンクが負圧になり破損する原因となります。

給水のしかた 管理技術者の方

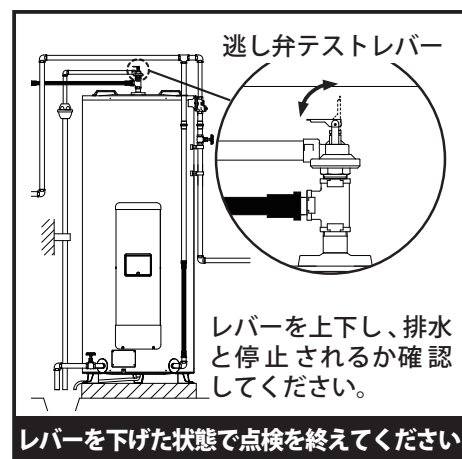
※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

- ①排水栓が閉じていること、逃し弁テストレバーが下がっていることを確認してください。
 - ②混合栓を開きます。
 - ③給水配管の止水栓を開きます。
 - ④給水配管の止水栓を開いたまま水の量が安定するまで流し続けます。
・タンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。
 - ⑤水の量が安定したら混合栓を閉じます。(これでタンクが満水状態になりました)
- ※再び運転する場合はP.31『使用方法』を参照ください。



逃し弁の動作確認

- ①逃し弁テストレバーを上げて、排水が行われるか確認してください。
- ②排水が正しく行われたことを確認したら、テストレバーを下げて排水が止まることを確認してください。
- ③排水が止まることを確認したら、固着防止のためにそのまま数回テストレバーを上下させた後、確実にテストレバーを下げてください。



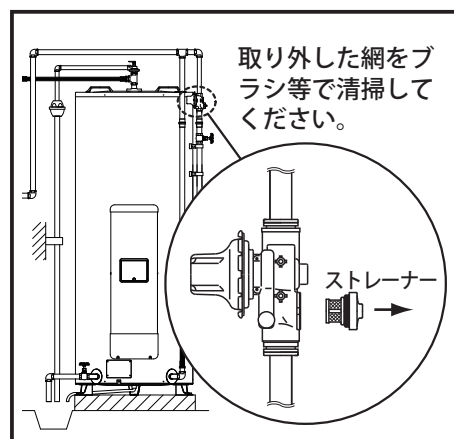
減圧弁ストレーナーの清掃 **管理技術者の方**

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

ストレーナーにゴミが詰まるとタンク内への給水量が少なくなり、機器の故障の原因となります。混合水栓から出るお湯(水)の量が少なくなりましたら、清掃を行ってください。

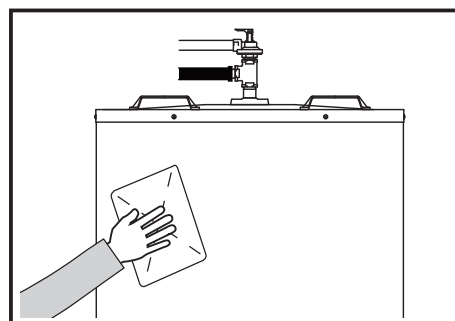
作業時に配管内の水が流れますので、床面にこぼさないようバケツ等で受けてください。また、床面に防水処理がされていない場合は、二次被害につながるおそれがありますので、管理技術者の方へご相談ください。

- ①止水栓を閉じ、減圧弁ストレーナーのふたを外し、網を取り出します。
- ②ナイロンブラシなどを使って網を清掃します。
- ③元通りに取り付けて、止水栓を開きます。



外装の清掃

水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは適量に薄めた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどは使用しないでください。



こんなときは

故障かな？と思ったら

温水器が正しく運転しない場合や不調な場合、修理をご依頼の前にご確認ください。(リモコンを取り付けている場合は、P.38「故障表示」も併せてご参照ください。)

これらの対処を行っても改善が見られない場合は、アフターサービス窓口までご相談ください。

現 象	確 認 事 項	処 置 方 法
お湯が出ない お湯の出が悪い	断水ではありませんか？	断水の際は止水栓を閉めて断水が終わるまでお待ちください。
	止水栓が閉まっていませんか？	止水栓を開いてください。
	配管が凍結していませんか？	凍結がとけるまでお待ちください。その後、凍結防止策を施してください。→P.32『冬季の使用(凍結防止策)について』参照
	減圧弁ストレーナーの清掃をしていますか？	減圧弁ストレーナーに異物が詰まっている可能性がありますので、ストレーナーの清掃をしてください。→P.42『減圧弁ストレーナーの清掃』参照
お湯が沸かない	配線用遮断器および電源スイッチがOFFになっていませんか？	OFFになっていた場合、ONにしてください。
	運転休止設定がONになっていませんか？	運転休止設定を解除してください。
	【リモコン付の場合】 リモコンの時計設定はされていますか？	時間常別電灯でご使用の場合、リモコンの時計設定がされていないと運転を行いません。時計を設定してください。→P.33『リモコン使用方法』参照
	停電ではありませんか？	P.44「停電後の対応について」参照
お湯がぬるい	沸き上げ湯温の設定に誤りはありませんか？	設定を確認し再設定してください。→P.31『湯温切替スイッチの使い方』、P.33『リモコン使用方法』参照
	お湯を使いすぎていませんか？	お湯の使用量を参照してください。→P.32『お湯の上手な使い方について』参照
	深夜電力通電中にお湯を使っていますか？	
	給水温度が低くありませんか？	秋から冬にかけては水温が急激に下がるため、沸き上がり時間が長くなります。→P.8『仕様』参照。
お湯が臭い お湯が汚れている	設置直後などでタンク内に配管時の油や接着剤が残っていませんか？	設置直後などは工事の際の切削油等が流入することがありますので、水をしばらく出し続けてください。
	長期間の休止後、または断水直後ではありませんか？	休止後は水の汚れや配管内の錆が出ることがあります。タンク内の水を入れ替えてください。
	タンク内の清掃をしていますか？	タンク内湯水を入れ替えてください。→P.39『長期間使用しないときは(排水の方法)』参照
沸き増し設定ができない	電力制度の契約内容をご確認ください。	電力制度の契約が「深夜電力」の場合、沸き増し運転は出来ません。

停電後の対応について

停電から復帰した後の運転状態は、ご使用方法・復帰の時間帯で異なります。
以下の内容をご確認のうえ、対処してください。

【深夜電力でご使用の場合】

①昼間時間帯

→昼間は電源供給を行わないため変化なし。

②深夜時間帯

→復帰後からヒーター通電を行います。復帰のタイミングによっては沸かし上げが終了しないことがあります。

【時間帯別電灯でご使用の場合】

●停電時間が40 時間以内

①昼間時間帯

→停電前の状態で復帰します。

②深夜時間帯

→復帰後からヒーター通電を行います。復帰のタイミングによっては沸かし上げが終了しないことがあります。

●停電時間が40 時間以上

①昼間時間帯

→時刻表示が「00:00」の点滅表示、または停電発生時の時刻のまま表示されます。

P.33 『リモコン使用方法』を参照し、時刻の再設定を行ってください。

②深夜時間帯

→時刻表示が「00:00」の点滅表示、または停電発生時の時刻のまま表示されます。

P.33 『リモコン使用方法』を参照し、時刻の再設定を行ってください。

※時刻表示が「00:00」の場合には沸かし上げを行わず、正しい時間設定になっていない場合には電気料金が割高になりますのでご注意ください。

アフターサービス

消耗品について

下表に記載する部品は定期的に交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や漏水を防止するため、定期的に交換してください。

部品交換(有償)はアフターサービス窓口までご依頼ください。

部品名		交換時期の目安	交換いただく理由
弁・パッキン	逃し弁	設置、交換日より 3～5年	長期間で使用いただくことにより、経年劣化やスケール※による動作不良や漏水を起こす可能性があります。漏水が起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。
	減圧弁		
	Oリング・パッキン類		
電装部品	ヒーター	設置、交換日より 5～7年	※水道水中のミネラル分が固着したもの
	過昇温防止スイッチ		
	センサー類		
	ケーブル・コード・配線類		
その他電装類			

※使用頻度、環境によっては交換時期が早まる場合があります。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年です。

メンテナンス契約について

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは裏表紙に記載の弊社リニューアル課までご連絡ください。また、部品のご注文はアフターサービス窓口にて承っております。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼になるときは、P.46の故障状況シートをコピーして必要事項にご記入いただき、お電話またはインターネット、FAXにてご連絡ください。(型番や製造番号等は本体貼り付けの保証票に印刷されていますので、故障状況シートへ転記してください。)

/atomic		保証票	
機種名	<input type="text"/>		
型番	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
最低使用流量	<input type="text"/>	L/min	
最高使用圧力	<input type="text"/>	MPa	
貯湯量	<input type="text"/>	L	
満水質量	<input type="text"/>	kg	
電源・電力	<input type="text"/>	50/60Hz	
伝熱面積	<input type="text"/>	m ²	
製造番号	<input type="text"/>		
製造年月	<input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月		
保証期間	納入後3年間		
株式会社 日本アトム		JET	
東京都墨田区押上1-1-2		東京スカイツリーイーストタワー24階	

アフターサービス窓口

TEL

〈全国共通ナビダイヤル〉



一般電話・公衆電話・携帯電話の場合(市内通話料金でご利用可能です)

0570-011039

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

受付時間:24 時間 365 日(営業時間:8:45～17:45)

一般電話・公衆電話の場合は市内通話料金でご利用可能、携帯電話からも接続可能です。

【ナビダイヤルに関するご注意】

※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直してください。※PHS、IP電話からはご利用になれません。その場合、以下の窓口にお問い合わせください。

関東地区のお客様：03(3621)2161 関東地区以外のお客様：裏表紙記載の最寄りの営業所にお問い合わせください。

インターネット

〈インターネット修理受付窓口〉

<https://www.itomic.co.jp/repair/>

インターネットのフォームにて修理のご依頼を受け付け致します。入力内容のご確認および訪問日のご調整のため、お申込み頂いた翌営業日に担当者よりご連絡を差し上げます。

FAX

〈FAX 修理受付窓口〉 **03-3621-2163**

FAX で修理のご依頼を受け付け致します。以下の故障状況シートに記載の上、最寄りの営業所へお送りください。
(裏表紙に記載)

故障状況シート

貴 社 名				ご担当者名	
ご 住 所					
T E L			F A X		
製 品 型 番	ES-	CM			
電源・電力				製 造 番 号	
設 置 場 所				保 証 期 限	
状 態					

共通項目

MEMO

共通項目

MEMO

【無料修理規定】

本規定は、保証票に記載された製品につき、納入から3年の間に故障が発生した場合、下記記載内容に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。保証票に記載された製造番号をご提示の上、アフターサービス窓口までご依頼ください。

1. 取扱説明書・製品本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、アフターサービス窓口にご依頼の上、修理に際して保証票に記載された製造番号をご提示ください。なお、遠隔地（離島および離島に準ずる遠隔地）への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居の場合は、事前にアフターサービス窓口にご相談ください。
4. 補償範囲は機能部とその付属品のみで、配管類は含みません。
5. 保証期間内でも次の場合は保証の対象とならず、有料修理となります。
 - （1）お客様が取扱説明書・本体貼付ラベル等に記載された手順・注意を守らなかったことによる不具合や、部品・タンク内の清掃など日常のお手入れを行わなかったことによる不具合※1
 - （2）Oリング・パッキン類の摩耗・劣化による不具合や、電池の消耗による不具合
 - （3）工事要領に指示する方法に基づかない施工や工事設計による不具合※2
 - （4）輸送・搬入・移動の際の落下・転倒・接触等による不具合
 - （5）専門業者以外による移動・分解・修理・改造などによる不具合
 - （6）指定規格以外の電気（電圧・周波数など）の使用や電力契約の間違いによる不具合
 - （7）温泉水・井戸水など水道水以外の水を給水したことによる不具合
 - （8）設備側の排水不良等による冠水により生じた不具合
 - （9）電気・給水の供給トラブル等による不具合
 - （10）配管の錆・砂・ゴミ等異物の流入による不具合
 - （11）建築躯体の変化などに起因する不具合や、塗装の色あせなどの経年変化またはご使用に伴う摩耗等による外観上の不具合
 - （12）火災、爆発等の事故、地震・津波・噴火・風水害・雷などの天災や地変、煤煙、降灰、酸性雨、凍結、海岸付近や温泉地等の地域における腐食性の空気環境、ほこり、異常電圧、異常電磁波、ねずみ・鳥・昆虫などの動物の行為、または戦争・暴動など破壊行為による不具合
 - （13）保証票の提示が無い場合
6. 無料修理により交換された部品や製品は（株）日本イトミックの所有となります。
7. 製品の保証は日本国内におけるご使用の場合のみ有効です。

※1：日常のお手入れとはお客様で自身で行えるもののほかに、設備業者や管理技術者に依頼が必要なものがございます。製品や部品によってお手入れ方法や時期が大きく異なりますので、取扱説明書やラベル等を必ずご確認くださいとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

※2：製品によって施工方法や注意事項が大きく異なりますので、施工時には工事要領を必ずご確認くださいとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

■お客様へ

1. 製品をお受け取りになる際は、製造番号が記載されている保証票が貼り付けられていることを確認してください。
2. 保証票の再発行はいたしません。
3. 機器が正しく運転しない場合や不調な場合は、修理ご依頼の前に「こんなときは」の項をご覧ください。
4. 無料修理期間経過後の故障・修理等につきましては、「アフターサービス」の項をご覧ください。か、アフターサービス窓口までお問い合わせください。
5. 保証票によって、保証票を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

株式会社 日本イトミック

本社・営業本部 TEL : 03 (3621) 2121 (代)
FAX : 03 (3621) 2130
〒131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 (東京スカイツリーイーストタワー 24F)
ホームページ <https://www.itomic.co.jp/>

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用ください。

一般電話・公衆電話・携帯電話の場合(市内通話料金でご利用可能です)

市内通話料でOK
ナビダイヤル® **0570-011039**

【ナビダイヤルに関するご注意】

- ※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。
- ※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直してください。
- ※PHS、IP電話からはご利用になれません。関東地区のお客様は以下の窓口、その他の地域のお客様は最寄りの営業所まで直接お問い合わせください。

関東地区お問い合わせ TEL : 03 (3621) 2161
FAX : 03 (3621) 2163

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。

また、部品のご注文はアフターサービス窓口で承っています。

リニューアル課 TEL : 03 (3621) 2760
FAX : 03 (3621) 2160

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

《担当エリアと営業所》

北海道地区 TEL : 011 (615) 6681
北海道営業所 FAX : 011 (615) 7004
〒063-0801 北海道札幌市西区二十四軒 1 条 5-1-10 (ラポール 24 軒 2 号館)
担当エリア：北海道地区全域

東北地区 TEL : 022 (357) 0848
東北営業所 FAX : 022 (357) 0847
〒983-0014 宮城県仙台市宮城野区高砂 2-8-21
担当エリア：青森県／岩手県／秋田県／山形県／宮城県／福島県

関東・新潟・山梨・静岡地区 TEL : 03 (3621) 2121
(株)日本イトミック 本社 FAX : 03 (3621) 2130
〒131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 (東京スカイツリーイーストタワー 24F)
担当エリア：東京都／千葉県／埼玉県／茨城県／栃木県／群馬県／神奈川県／山梨県／新潟県／静岡県

中部・北陸地区 TEL : 052 (222) 2561
中部営業所 FAX : 052 (222) 2559
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 1-4-12 (アレックスビル 3F)
担当エリア：富山県／石川県／福井県／岐阜県／愛知県／三重県／長野県

近畿地区 TEL : 06 (7177) 4949
関西営業所 FAX : 06 (7177) 4948
〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町 3-1-11 VORT 御堂筋本町Ⅱ 7F
担当エリア：大阪府／京都府／滋賀県／和歌山県／奈良県／兵庫県

中国・四国地区 TEL : 082 (240) 1361
中国営業所 FAX : 082 (240) 1363
〒730-0051 広島県広島市中区大手町 2-3-9 (大手町中村ビル 2F)
担当エリア：鳥取県／島根県／岡山県／広島県／山口県／香川県／徳島県／愛媛県／高知県

九州・沖縄地区 TEL : 092 (481) 3911
九州営業所 FAX : 092 (481) 3930
〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵 3-28-5
担当エリア：福岡県／佐賀県／長崎県／大分県／熊本県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県